

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801073		
法人名	医療法人 翌檜会		
事業所名	グループホーム「ばらいろ」	ユニット名	
所在地	福岡市東区名子1-1-5		
自己評価作成日	平成25年12月10日	評価結果市町村受理日	平成26年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成25年12月24日	評価確定日	平成26年1月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔の絶えないホーム作りを目指し、入居者に合わせた時間作りを心がけています。入居者の誕生日にはやりたい事、食べたいものを聞き提供しています。地域の方・ご家族が気軽に訪問でき、又、要望等を話せる環境作りをしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市東区にある「グループホーム「ばらいろ」」の名前は、「人生はら色」と言う意味が込められ、建物の色もピンクが使われている。開設から11年目を迎えているが、地域連携を深める取り組みを続けており、25年8月には多々良公民館に行き、パンフレットを置かせて頂いたり、公民館祭りに作品の出展をする事もできた。入居者の希望で始まった朝の散歩の機会に、ホーム近くに無人販売がある事を知り、旬の野菜を購入したり、生産者の方と会話をする機会も作られている。田んぼの用水路の葉っぱ拾いも職員が行う等、理念にある“地域に開かれた施設を目指す”取り組みを着実に続けている。次第に地域の方とも顔馴染みの方が増え、保育園児やボランティアの方との交流も年々多くなっており、ご利用者の楽しみの一つとなっている。外部評価当日は柚子湯を楽しまれており、“入居者や利用する方々が、生きる意義と喜びを見出せるよう”様々なアイデアを職員が出し合い、日々の生活に活かせるように努めているホームであった。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前まではいつも付けている名札の裏に入れていたが個人のロッカーに貼る事によって勤務前に確認できるようにしている。	管理者を中心に職員全体のチームワークが更に強くなっている。“利用者を尊重し、個々に適したサービスを提供する…”という理念の基で個別ケアが行われ、近くのグループホームと行き来をされたり、地域行事にも参加する事ができ、保育園児の交流も毎月行われている。日々笑顔で楽しい生活となるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に行ったら地域の方に挨拶したり、近くの農園の野菜を買ったりしている。	毎月、保育園児との交流ができ、ご利用者も楽しみにされている。町内会で行われた餅つき(芋餅)を見に行き、一緒にお餅を食べられたり、公民館祭りに作品(リース)の出展をする事もできた。ボランティアの方がおかけ演奏やフラダンスをして下さり、楽しいひと時となっている。今後は小学生との交流も検討予定にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ足りないと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に生かせるよう努力している。	会議では写真を掲載した資料を見て頂いている。25年12月は家族会を一緒に行うため、休日に開催したり、毎回、さんまパーティーなどを企画し、ご利用者も一緒に交流できる機会が作られている。会議の最後には大正琴やフラダンスを一緒に行い、そうめん流しも楽しまれた。26年度は勉強会も盛り込んでいく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事があれば福岡市へ電話して問い合わせたり家族とのトラブルがあったらアドバイスを頂いている。	運営推進会議に地域包括や市の本庁の職員(年2回)の参加があり、情報交換をしている。地域包括からも消防や後見制度の話をして下さったり、ご利用者や家族などへの対応に関する相談にもアドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内でも研修があったり又現場のスタッフと話し合って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止の研修を法人全体で行い、全職員が交代で参加している。身体拘束委員会もあり、意見交換が行われている。帰宅願望が見られた時には散歩に出かけたり、併設するデイケアで気分転換を図ったり、少し不穏になられた時も職員間で協力し、医療機関への相談も続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体の勉強会で取り組んでいる。又、月に一回家事発生防止委員会で虐待の事例がないか検討している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内・外研修に参加している。	契約書に制度に関する内容が記載されており、管理者が入居時に説明すると共に、入居後も制度の必要性を確認している。制度を利用している方もおられ、後見人との情報交換もできている。職員は、事業所全体研修会で権利擁護の制度に関する研修を受け、運営推進会議では地域包括の方が制度の説明をして下さった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議又は面会に来られた時に色々な意見を聞いてスタッフ会議等で話し合い、反映させるようにしている。	面会時や家族会、運営推進会議の時に、入居者や家族の思いを聞いている。面会時にもお茶を持参し、相談しやすい雰囲気に努めている。ケア面などの意見も頂き、適宜、事務長も含めて検討し、結果を家族にお返ししている。内容によっては市の方にも相談し、アドバイスを頂いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何か問題があればその都度話し合いの場を設け対応している。	事業所全体会議で、行事の場所の意見もあがり、外出支援などを楽しまれている。毎月の会議でも職員の意見は多く、会議で採用された意見(ケア内容)は1ヶ月実施し、1ヶ月後に振り返りを行い、更なる検討を続けている。全職員が意見を言える環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	実施できている。	事務長と管理者が面接しており、採用時はヘルパ-2級の取得と共に、笑顔や優しさ等を大切にしている。家事全般ができる職員、対応が優しい職員、電気の取り替え等、職員個々の特技を發揮して頂いている。職員個別の課題(スキルアップできるところ)にも向き合い、メンタル面にも配慮した個人面談を行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	取り組んでいる。	管理者は日々の生活の中で笑顔を大切にすると共に、「ご本人のできることを引き出し、その方に応じた関わりをしていく事を大切にしよう」職員に伝えている。理念に通じる「・・利用者を尊重し、個々に適したサービスを提供する・・」事を職員と共有し、ご本人のBPSD行動にも向き合い、ご本人本位のケアを考えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはできるだけ行ってもらうように働きかけている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、同じ地域にあるグループホームからの訪問や交流を行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の言葉に傾聴するよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の当ホーム訪問時に個別に話しやすい声かけするよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを提案しながら本人、ご家族の希望する支援を行えるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その意識を忘れないよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との会話を通じて絆を作るよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問美容室の利用も可能だが、本人の希望によりご家族の協力のもと今まで行きつけの美容室でカット、カラー、パーマをされている。	職員全員でアセスメントできるように、馴染みの方を含めて、より入居者の事を把握できるアセスメント書式を作られた。団欒時や面会時に昔話を伺っており、家族と一緒に自宅に帰られたり、お墓参りや美容院に行かれる方もおられる。隣の老健から入居された方もおられ、老健に遊びに行く機会も作られている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人のADLに合わせた支援を行い、孤立しないよう声かけに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の老健に移られた家族が来られたり、本人にも入居者と面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の希望、意向に沿って介護している。	センター方式に通じるシートを作成している。日々の行動の観察に努め、日常の会話や入浴時、夜間の時間などに意向を伺っている。意思疎通が難しい方にも、生活歴やご本人の思いを家族から伺っている。今後も24時間シートなども活用し、BPSD行動の分析をしていく予定である。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実施できている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まだまだできていない事が多いが、今後できるように努めて行きたい。	ミーティングで日々のケアの振り返りをしている。計画変更の検討は計画作成担当者と各担当職員が行い、計画作成担当者が計画の原案を作成している。洗濯物たたみ、食事の前の挨拶、お皿拭きなどの役割と共に、雑誌を読む、散歩等の楽しみも盛り込まれている。今後も、ご本人本位の計画作りをしていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かせるよう努力している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できていると思う。	毎週往診が受けられる事もあり、母体のクリニックに主治医を変更される方も多い。家族が受診同行した時も含めて、受診結果の共有もできている。ホームの看護師に24時間体制で相談でき、夜中にも駆け付けて下さっている。体調変化時は24時間体制で関先生に指示を頂き、系列のPTや管理栄養士からのアドバイスも頂けている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば、その都度看護師に報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、支援に取り組んでいきたい。	「家族・本人が、住みなれたここで最期まで・・という希望があれば看取りを行う」と言う方針があり、看取りケアに関する同意書も作成された。終末期には、かかりつけ医と管理者、計画作成担当者が、ご本人や家族と話し合い、意向の確認を続けている。母体のクリニックは入院ができないため、緊急時や一時入院できる病院の紹介も行われ、老健の看護師とも協力体制ができている。	終末期ケアの経験はないが、入居者の高齢化が進んでおり、今後も希望を把握していくと共に、センター方式なども活用し、記録に残していく予定にしている。ホームの看護師が中心になり、職員の不安を受け止め、終末期ケアに向けた意識を高めるための勉強を続けていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所全体での勉強会で学んだり、外部研修等で学んでいる。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は行なっているが、地域の協力体制はまだまだ不十分なので今後協力体制を築いていきたい。	併設施設と昼夜想定訓練をしている。入居者への抜き打ち訓練も行われ、避難経路の確認や水消火器(消防署からレンタル)の使い方の訓練を行っている。消防署の方がホーム内の定期点検をして下さり、災害に備えて自家発電があり、水・ラップ・飴・乾パン・リハビリパンツ・パッド等を入れたリュックを2つ準備している。	今後も地域の方との協力体制を深めるために、多々良公民館での訓練に参加予定である。日頃出かけているコンビニの方等にも災害時の応援依頼をしていくと共に、26年度は消防署との合同訓練や消防団との連携も検討予定にしている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人が十分に心がけている。	ご利用者とは家族のような関係になっている。危険な行為が見られた時は、短い単語で明確に危険である事を伝えているが、言葉の遣い方には配慮している。席を離れる時は記録類をテーブルに出したままにせず、個人情報の規定を設け、適切に管理している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実施できている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、その人に合わせて一人一人のペースを大切にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。本人に洋服を選んでもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備ができる人には、お願いして手伝っていただいている。できない人には、いただきますのあいさつや、自分の手の届く範囲でテーブルを拭いてもらっている。	併設施設で調理しているが、地域の方の差し入れで一品料理を作る時も多い。日曜は“がめの葉”のだんご等を手作りし、“懐かしい”と言いながら昔話に花が咲いている。庭にテーブルを出してお弁当を食べたり、竹を切って保育園とそうめん流しを楽しませ、イベントの時にはバイキング形式にし、食事を楽しんで頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量を記録・把握して体調管理をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行なっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して、その都度トイレ誘導している。	下着着用の方もおられる。パッドの利用が減り、トイレでの排泄ができるように立位訓練もしている。退院時にオムツを利用している方も、排泄感覚を確認すると共に、ご本人の希望も尊重し、トイレでの排泄が可能になった方もおられる。「今からご飯ですよ」と言う声かけでスムーズに行かれる方もおられ、個別の声かけをしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトをつけたり、薬による排便コントロールを行なっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴はしているが、希望があれば入浴していただいている。	毎日お風呂に湯を入れており、最低でも週3回は入浴できるようにしている。「1番風呂がいい」と言う方もおられ、希望に応じた入浴支援をしている。入浴剤を毎日変えたり、菖蒲湯や柚子湯も生まれ、ご本人が持ってきた石鹸と桶を使用している。浴槽が深い事もあり、安全な入浴環境の検討も続けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩が日課だった方には、一緒に散歩に出かけたり、カラオケが好きな方には歌ってもらったり、その人に合わせて支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きつけの美容室へ出かけたり、家族の協力を得てできている。	老健の方に大型車の運転の応援を頂き、花見や久山のカシ見学に行かれています。イオンでの買い物では、お店側が駐車場を確保して下さったり、コストコでの買い物も楽しんでいます。ホーム周辺を散歩したり、近くのお店(コスモ)やコンビニにも出かけ、散歩の時には無料販売での買い物も楽しみ、献立の話題に発展している。外出時はおしゃれをして出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人には、2~3千を財布に入れて、出かけた時につかってもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはいつも庭で咲いたお花を飾っている。その時期に合った飾りを飾ったりしている。	台所から玄関が見えるように鏡が設置されている。リビング全体が明るく、掃除も徹底しており、リビングの赤いソファで、お昼寝をされる方もおられる。廊下には大きなソファがあり、めだかも泳いでおり、インテリアにも趣向をこらし、入居者同士のお茶会など、団欒の場になっている。廊下には写真があり、生活風景が伝わる場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1週間に1回席替えをして、色んな人とのコミュニケーションを楽しんでいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族に家具の配置等をお願いしている。	各居室の扉にお花の絵を付けている。テレビやタンス、鏡台、お位牌などを自宅から持ち込まれ、家族の写真、ご本人のアルバム、家族からの手紙も飾っている。“そろばん”や計算ゲームを持参し、お部屋で計算に励まれている方もおられ、心身状況に応じてベッドの向きも工夫している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	実施できている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	○ 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	○ 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	○ 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	○ 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	○ 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	○ 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		